

第3回「うめきたとキタのまちづくり」…「うめきた2期」のまちづくり

講師：大阪市都市計画局 うめきた整備担当部長 辰巳康夫氏

1. 「うめきた地区」のまちづくり…先行開発区域1期「グランフロント大阪」の概況

うめきた地区は1日約240万の乗降客が行き交う西日本最大のターミナルであり、関西の多くの業務商業機能が集積する中心地であり、北ヤードは西日本最大の一等地である。

昭和62年国鉄民営化、うめきた地区全体約24ha、先行開発区域1期約7haが2002年7月に「都市再生緊急整備地域」に指定され、国際コンセプトコンペの実施を経て2004年7月に「大阪駅北地区まちづくり基本計画」が策定された。

JR大阪駅北に駅前広場、南北をシンボル軸、東西を賑わい軸として緑豊かな都市空間の創出をめざす。「知的創造拠点ナレッジキャピタル」をコンセプトとした、先行開発区域の「グランフロント大阪」が2013年4月に開業され、アジアのゲートウェイとして大阪駅にデッキで直結する商業・業務・ホテル・住宅が高層・集積される。「ナレッジキャピタル」は企業人・研究者・クリエイター、一般生活者が行き交い、それぞれの知を結び合わせて新しい価値を生み出す“知的創造・交流の場”である。ラボ（研究室）フューチャーライフショールーム・ナレッジサロン・ナレッジセンターが各所に配置され、最先端の技術と感性を持つナレッジの集積と融合により交流と賑わいを演出する。

まちを支える活動組織として、直営事業の運営は「一般社団法人ナレッジキャピタル」が外部連携などの公益的な取り組みを推進、テナントの運営管理は「㈱KMO」が事業推進。まち全体のマネジメントは「一般社団法人グランフロント大阪TMO」が設立され公民連携による持続的且つ、一体的なまちの運営を推進する。自主財源事業の巡回バスやイベント、オープンカフェ、バナー広告、分担金事業として歩道空間の管理を推進する。これが大阪市の先進成功例としてBID（業務改善地区）の考えを取り入れたエリアマネジメントである。商店街的な地域地権者に負担金を徴収することでパブリックな場を「民間」が運営、エリアの付加価値向上・ブランド化を図るものである。

2. 「うめきた2期」のまちづくり…「みどり」と「イノベーション」の融合拠点の紹介

うめきた1期の「グランフロント大阪」が7年を経過し再開発事業としては順調に推移、都市開発を取り巻く状況が変化する中で、新しいまちづくりのプロセスをめざす。民間のアイデアコンペを募り、2015年3月まちづくり方針を策定する。うめきた2期区域の基盤整備として3つの事業がある。①JR東海道支線地下化及び新駅設置事業、②道路広場の土地区画整理事業、③4.5haの防災公園街区整備事業である。

対象地は約16.2ha、地区全体で「みどり」が都市公園を含めて8ha確保する“比類なき魅力を備えたみどり”の実現が大きなテーマである。もう一つは新たな国際競争力を獲得し、世界をリードする「イノベーション」の拠点整備である。研究開発拠点・大学の新技术と人のネットワークの構築の中心的役割を果たす「イノベーションプラットフォーム」を構成。

事業者コンセプトは“希望の杜”、都心で自然を感じられる「うめきたの森」、イベント対応の「リフレクション広場」の都市公園整備、東西の道となる「ステッププラザ」、大阪駅と繋がる立体通路を整備することで“歩く楽しみ・喜びを創造するまちづくり”をめざし、2024年夏（令和6年）がうめきた2期のまちびらき予定である。

3. 「大阪の都市再生のねらい」 …都市空間の再編イメージ

大阪も都市再生のまちづくりが求められる。必要都市機能と都市空間をセットで考えるしくみが必要である。現在、都市再生特別地区として17地区（38ha）がある。大阪駅周辺の都心（医療等の新産業創出拠点）を中心に新大阪から難波・天王寺の南北軸と臨海部（舞洲・夢洲・咲洲）（長期滞在型の国際観光拠点）を東西に結ぶ東西軸が再編イメージである。

※「質疑応答他」

- ・大阪市の港区・此花区の今後の開発計画について
築港エリアは海遊館もあり、まちづくりイベントも盛んであり、安治川もリバーフロントとして魅力的である。既存港湾施設の扱い（地権者と規制緩和）が今後の課題である。
- ・うめきたから新梅田シティ、茶屋町との連携、周辺エリアへの展開について
東側は阪急村が茶屋町に向けヒューマンスケールのまちづくりを展開、北側道路がデッキにより阪急側と繋がるネットワークは1期開発で整備予定である。
- ・高齢者・障がい者への配慮事項について
ライフデザイン・イノベーションのテーマに健康・長寿サービスを展開予定である。
- ・2期のまちづくりに「みどり」による“わくわく感”がありますが都心居住について
都心機能を複合した都心型住宅を予定しています。
- ・「大きなみどり」は大阪のセントラルパークになり得るか。
大阪のシティパークは大阪城周辺と考えます。うめきたの緑は都心の大きな自然です。
- ・都市防災公園をUR都市機構が整備する理由は何でしょう。
UR都市機構が窓口となり事業を推進し、最終的には大阪市に移管されます。
- ・南北600mの移動手段としては何か考えられていますか。
基本的には徒歩、うめぐるバスが巡回、パーソナルモビリティは今後の社会状況である。
- ・街路のイベント活用について
東西軸は車道がありますが、イベント時は歩行者天国の活用も考慮します。
- ・1期「グランフロント大阪」のデッキが狭いと思われそうですが
集客が予想を超える状況もあり、混雑が見られます。2期は動線が多方面からあり問題はないと考えます。
- ・うめきたから淀川へのつながりは
西側のウォータフロントへは今後淀川左岸線2期、正連寺川の再整備が進められています。
- ・事業コストの問題はなかったのですか。
開発事業者が大手企業コンソシアム（共同事業体）であり事業コストの問題はありません。
- ・「みどり」の維持管理について
地下水、井戸の活用（地盤沈下へは配慮）、環境配慮としての芝生の取り組み等

※「感想」

1期「グランフロント大阪」の成功と2期「みどりの都市公園」が大阪の大きな魅力となり、大阪万博、IR事業に先行する2024年の開業が期待されます。大阪版BIDのエリアマネジメントで「分担金条例」を適用したことは大阪らしい試みだと感じました。